

もっと知りたい

ふらふら

33

「探し歩記」

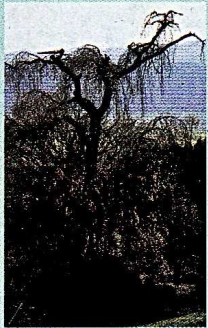
# 姨捨三大絶景ポイント

今回は、八幡の編集委員二名が「名勝姨捨」を歩いて「三大絶景ポイント」を選んでみました。

歩いたのは四月半ばです。里は花々に包まれていました。姨捨観光会館駐車場で、案内をお願いした姨捨観光推進協議会長の宮坂武夫さんと合流して、さあ出発です。

## ◇ポイントその一「姨岩」

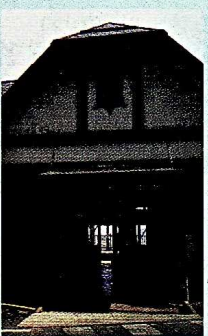
最初に、道を挟んだ長楽寺の裏にある「姨岩（姨石）」に登りました。ゴツゴツした足元に注意しながら岩の上に立ちました。「ここからは善光寺平が一望できます。今日は遠くが霞んでいますが、北信五岳も見えます」と宮坂さん。「十三の駅が見えるとも言われるんですよ」「はあ、ほう」言葉も無く、ただ景色に見とれました。ここが一つ目のポイントに決まりです。



分校跡のしだれ桜

◇ポイントその二「姨捨駅」  
次に、姨捨駅へ向かいます。途中にある「月見畑」では、地元の人が毎年花見をするそうです。なぜか下半分だけがしだれている不思議な桜の木が並んでいました。さらに坂を登ると、目に入ってきたのは、話に聞く「分教場跡地のしだれ桜」です。ちょうど咲き始めたところでした。近づくくと、老木の醸し出す厳かな雰囲気を感じます。立ち止まった私たちに、頭上から鶯が声を聞かせてくれました。

大池踏切を渡って駅に着くと、宮坂さんが「あの窓を見て下さい」と指差します。大正ロマンを漂わせる建物を外から見上げると、見慣れない茶色の窓が。これは一体…？「これは亀の形なんです。昭和九年に建て替えられた時に、篠ノ井線はスピードが出ない



姨捨駅の亀の形の窓

ので、亀のイメージで作られたのですよ」なるほど。窓の存在すら知らなかった私たちですが、当時の人々の篠ノ井線への愛情に触れたような気がしました。

記念切符売り場や「くつろぎの駅」コーナーなど、もてなしの心に溢れた駅舎を通り抜けると、そこに「日本三大車窓」の絶景が開けています。説明は不要ですね。駅からの眺めは、宮坂さんもイチ押し No.1ポイントです！

◇ポイントその三「棚田の入りの小さな高台」  
続いて棚田へ行きましょう。駅の南方、一本松踏切を渡ります。長尾根地籍の道路下の民家を過ぎた辺りは、撮影ポイントとして知られる所ですが、私たちは、踏切近くから棚田を通る細い道に入りました。

左右の小さい田の間に、とても小さな高台（展望台）がありました。「ここからは、長野から戸倉の方まで見えるんですよ」宮坂さんの言葉に首

を右に回すと、

確かに、戸倉駅

やキテイパークのもつと先

までが見えています。この風景は今までに無かったものなので、三つ目のポイントに決定。

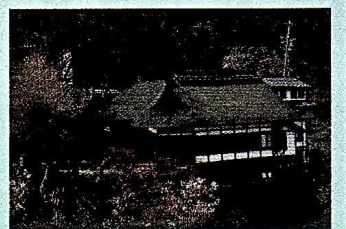
## ◇もうひとつのポイント

めでたく三大ポイントが決まり、急な坂道を姪石苑（鯉のぼりが目印）まで下りました。そこから西へ向かう道を五〇分ほど行くと、前方に長楽寺の全景が現われます。正面からの名刹の趣を、車道からは見ることができないので、こちらも絶好のポイントです。山門をくぐって、境内を見せていただき、石段をゆくり上ると、姨捨観光会館前に戻りました。およそ二時間の「探し歩記」でした。

皆さん、一度姨捨を歩いて絶景をたっぷりと味わってください。特に春と秋がお勧めです。

館報編集委員（八幡）瀧田 弘子

山崎摩也子



長楽寺